

平成 27 年度第 1 回岐阜県重症心身障がい児者支援連携会議 議事概要

○日時：平成 27 年 9 月 16 日(水) 17:00~18:45

○場所：希望が丘こども医療福祉センター多目的ホール

○出席者： (敬称略)

所属・職名	氏名
岐阜県医師会 常務理事	矢嶋 茂裕
国立大学法人岐阜大学大学院医学系研究科 障がい児者医療学寄附講座 准教授	西村 悟子
地方独立行政法人岐阜県総合医療センター 新生児内科部長	河野 芳功
地方独立行政法人岐阜県総合医療センター 小児科部長	今村 淳
岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター 主任医長	内木 洋子
岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター 事務局長	吉田 茂喜
大垣市民病院 新生児集中治療室 認定看護管理者 師長	服部 京子
公益社団法人岐阜県看護協会 常務理事	小谷 美重子
訪問看護ステーションやすらぎ 理学療法士	西脇 雅
社会福祉法人あゆみの家 施設長	田口 道治
特定非営利活動法人在宅支援グループみんなの手 代表	渡邊 麻奈美
岐阜市障害者生活支援センター 所長	臼井 隆雄
岐阜市 福祉部 福祉事務所 障がい福祉課長(代理出席:相談係長・安原善光)	高木 健一
岐阜県健康福祉部次長	土井 充行
岐阜県健康福祉部次長	久保田 芳則
医療整備課 看護企画監	佐々木 真美子
保健医療課長	有賀 玲子
保健医療課 主幹	赤尾 典子
障害福祉課長	尾崎 浩之
地域医療推進課 障がい児者医療推進室長	都竹 淳也
地域医療推進課 障がい児者医療推進室 障がい児者医療推進係長	山田 育康
地域医療推進課 障がい児者医療推進室 障がい児者医療推進係主査	馬瀬口 良正

開 会

開会あいさつ（健康福祉部次長）

議 事

1 平成27年度重症心身障がい児者支援施策の進捗状況について

○資料説明

資料1 県重症心身障がい児者支援連携施策の進捗状況

資料2 各支援事業の取組状況及び新規・拡充による今後の事業展開

○質疑・意見交換

（NICUからの在宅移行支援について）

- ・西濃地区では、小児の受入れが可能な訪問看護ステーションが限られており、NICUからの在宅移行に苦勞しているのが現状。小児の訪問看護は、家族との関わりあいも難しく、受入れに消極的な訪問看護ステーションもある。
- ・小児の訪問看護は、特に母親との信頼関係を構築してくのは大変な面があるが、経験を重ねることによって、対応の仕方などがうまくなっていく。訪問リハビリについても、小児に対応できるPTが不足しており、今後、養成していく必要がある。
→9月から看護協会において小児訪問看護人材研修を開始することとしており、県としても小児に対応できる訪問看護の人材育成を進めていきたいと考えている。

（クリニックにおけるレスパイトについて）

- ・レスパイトについては、医療型短期入所としてクリニックでも一生懸命取り組んでいるところがあるが、希望が丘こども医療福祉センターをはじめ、公的機関の施設が充実する中、今後のクリニックとして役割・位置づけについて、ニーズや実態を把握しながら、検討していきたいので、色々な情報を知りたい。
→ショート事業所の確保については、県としても大きな課題だと考えている。岐阜地区においては、充実してきているが、西濃、東濃東部、飛騨については、いわゆる「レスパイト過疎地」と呼んでおり、まだまだサービスが不足している状況で、各施設に対し、短期入所を受けてもらえないかお願いをしているところ。クリニックにおいてもご協力いただきたいと考えている。

2 平成28年度重度障がい児者支援施策の方向性について

○資料説明

資料3 平成28年度重度障がい児者支援施策の方向性

○質疑・意見交換

（リハビリの人材育成について）

- ・在宅の重症児者にはリハビリは大変有効、特に口腔ケアが大変重要であるにもかかわらず、支援が不足しており、訪問リハビリのスタッフは増えてきたが、ST（言語聴覚士）が必要なので、こうした人材育成についても検討して欲しい。
→リハビリ、口腔ケアについてはご指摘のとおり大変重要なので、生活介護事業所に

において、口腔ケアやリハビリの伝達研修の部分を広げていくと同時に、人材育成ということで、小児のリハビリの専門研修の実施を来年度検討しているが、委員のご提案を含め合わせながら具体的なやり方を検討していきたい。

(在宅重症児者の将来的な入所施設について)

- ・重症児者の親は、自分が子どもの面倒をみられなくなったときの将来に対する不安を抱えているが、この場合の流れはできているか。
→いわゆる親なき後の問題について、療養介護を中心とした施設入所という話になるが、療養介護施設としては、現在、隣県の愛知県で多くの施設整備が進められているが、一方で、少子化に伴って、重症心身障がいの子どもの数が減っており、将来的には空床がでてくる可能性もあり、需要予測が非常に難しい局面に入っている。このため、新設にかぎらず、小さいグループ型の施設や既存の病棟の活用を含めて検討しながら、もう少し見極めていきたいと考えている。

閉 会

以 上